

雨の日の技術的な親切

山口県 柳井西中学校

1年 金井 すみれ

「あれ、前に進まない！」

ある日、私は雨の中、動かなくなった自転車のハンドルをにぎり、焦りました。下校の途中のできごとです。カギが偶然にもかかってしまったのかと思いましたが、その様子はありません。家に帰れないかもしれないと焦りました。

今までも自転車を倒すというトラブルはよくありました。自分では倒れている自転車を起こせないの、誰か来ないかと待つことになるのですが、その時よりも焦ったのです。まだ学校の校門を出ていくらしもない時のことでしたから、学校まで戻って先生に助けてもらおうかと思案していたちょうどそのとき、

「どうした？」

ふり返ると同級生の男の子でした。わけを話すと、

「それはきっと、チェーンがはずれたんだと思うよ。」

その男の子は M 君といいます。運動はもちろん、勉強もよくできるすばらしい人です。彼は自分の自転車を置いて、私の自転車の前に座りました。そしてチェーンを両手で持ち、慣れた手つきで「パシッパシッ」と音を立てながら、2分とかからないうちに直してくれました。

チェーンといえば油にまみれていて、触ると自分の手が茶色く汚れてしまうはずです。私はハンカチやティッシュを渡すべきでした。でも私は、もう家には帰れないかもしれないと途方に暮れていたところを直してもらったので、うれしくて興奮するばかり。チェーンで手が汚れることまで気が回りませんでした。ですから私は M 君にハンカチを渡さなかったのです。

ほどなく M 君は笑って、

「じゃあね。」

と言って帰ったのです。自分の手が汚れているのにもかかわらずに。

家に帰って、親にできごとを話すと、

「ハンカチは貸したかね？」

言われて初めて、そのことに気がつきました。自分はなんて恩知らずなのだろうと、恥ずかしくなりました。

人を助けるためには思いやりの心が必要です。手が汚れるからとか、触りたくないと思うより、困っている人がいれば助けたい、相手に喜んでもらいたいという思いやり。

そしてそれだけではなく、人を助けるためには技術も必要だということがわかりました。この時も、M 君がチェーンの直し方を知らなかったら、きっと私は学校まで戻らなければならなかったと思います。

私にはチェーンを直す技術はありませんが、人を助けるために私ができる技術は何かを考え、これから身につけていきたいです。